

査会で環境影響評価（アセスメント）の配慮書の内容を説明した。候補海域で環境アセスメントの手続きに着手した計画は5件目となった。

関連会社「唐津玄海洋上風力発電合同会社」が12月上旬に経済産業省と県に配慮書を提出した。離島周辺に広がる約1万4千畝の候補海域に最大64基を設置する計画で、出力は最大60万キロワット。基礎部分を海底に固定する着床式を基本に、技術的な動向も踏まえて浮体式も検討しているとしている。

県は東松浦郡玄海町沖を含めて分散していた候補海域を昨年、同町沖を外した上で集約した。インフラックスは見直し前の海域でもアセスの手続きを進めていたが、今回の計画に切り替えた。県は知事意見をまとめて来年3月1日までに事業者と経産省に提出する。

見直し後の海域では大阪ガス（大阪府）などのグループと日本風力エネルギー、レノバ（以上東京都）、関西電力（大阪府）も事業を計画している。

## 唐津沖洋上風力 5件目を審査

東京の企業が計画

佐賀県が唐津市沖に設けている洋上風力発電誘致の候補海域で事業を計画する再生可能エネルギー開発の「インフラックス」（東京都）の関連会社が23日、県環境影響評価審

（江島貴之）